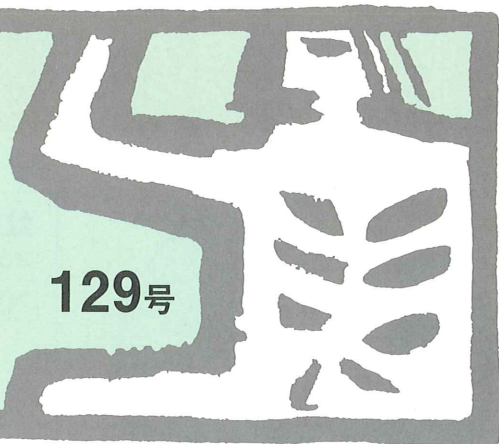


# ピース・ウイング長崎 会報

# へいわ

129号



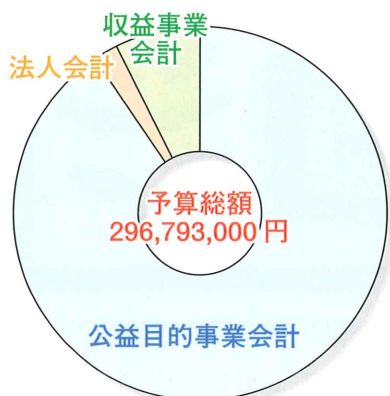
■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961  
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 平成23年度の予算と事業計画
- 継承部会員・平和案内人交流会の感想
- 祈念館だより（「長崎原爆戦災誌」英訳版一部暫定公開開始について）
- 図書販売コーナー
- TOPICS（東北地方太平洋沖地震による災害に対するお見舞い、長崎平和音楽祭開催報告、辺真一氏講演会開催報告、被爆者健康講話について）
- 第4期生平和案内人育成講座
- 継承部会員 新規入会の感想



第4期生平和案内人育成講座 修了式の様子（4～5ページに関連記事）

# 平成23年度の予算と事業計画をお知らせします！



## 公益目的事業会計 274,285,880円（前年比▲132,920円）

不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与する事業を言います。

内訳 ①平和推進事業（28,723,880円）

〔協会が実施するさまざまな平和関連の事業のための会計です。今回の紙面ではこの会計を中心に説明しています。〕

②原爆資料館運営事業（15,156,000円）

③原爆資料館図書資料収集整理事業（4,830,000円）

④国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業（225,576,000円）

## 収益事業会計18,520,000円（前年比▲1,880,000円）

原爆資料館の売店で平和関係の図書やグッズを販売する事業のための会計で、収益は平和推進事業に繰り入れてさまざまな事業に使っています。

## 法人会計 3,987,120円（前年比▲917,080円）

法人の事業を管理するため毎年度経常的に要する費用を言います。

## 平和推進事業（単位：円）

### 収入

科 目		予算額	前年比
会費収入	会員のみなさまからいただいた会費	886,880	876,880
補助金収入	長崎市から交付される運営のための補助金	27,101,000	▲410,000
基本財産運用収入	基本財産から得られる利子	25,000	▲53,000
寄付金収入	協会に寄せられる寄付金	610,000	164,000
繰入金収入	収益事業で得られた収益金からの繰入金	100,000	▲301,800
雑収入	それぞれの科目にあてはまらない収入	1,000	0
合 計		28,723,880	276,080

### 支出

科 目		予算額	前年比
発刊事業	発刊事業にかかる費用	1,756,000	19,000
啓発事業	啓発事業にかかる費用	1,308,000	96,000
調査研究事業	調査研究事業にかかる費用	43,000	0
育成事業	育成事業にかかる費用	5,104,000	272,000
平和推進事業に係る人件費等	事務所の維持など基本的な運営にかかる費用	20,344,880	461,080
固定資産取得支出	事業や運営に必要な備品などを買い入れる費用	168,000	▲572,000
合 計		28,723,880	276,080

## I 平和推進事業（公益目的事業会計）

### 発刊事業

**会報「へいわ」の発行** 協会の事業活動をはじめ、平和に関する動きをとらえ、会員に情報を提供するとともに、会員相互の連携を図ります。

**ブックレット「平和のあゆみ」の発行** 協会の年間を通じた平和意識高揚のための取り組み、活動状況、事業実施状況等をまとめたものです。

**広報活動** 情報ボックス、会員勧誘リーフレット作成等により、協会活動の周知を図ります。

### 啓発活動

**被爆体験講話の実施** 被爆の実相を伝えるため、修学旅行生や市内の小・中学生などに被爆体験講話を実施します。また、平和学習用のビデオ・写真パネル等の貸し出しも行います。

**講演会等の開催** 平和問題への認識を深めるため、講演会を実施します。

**国連軍縮週間行事** 国連平和と文化の国際年を記念した国連軍縮週間（10/24～10/30）に「市民のつどい」を実施し、若い人たちが参加しやすい催しなどを行います。

### 調査研究事業

平和・軍縮関係の会議やシンポジウムなどに出席し、情報収集や関係機関との交流を図ります。

### 育成事業

**部会活動** 会員が市民とともに、平和意識の高揚を図るための活動を行います。（継承部会、写真資料調査部会、国際交流部会、音楽部会）

**アジア青年平和交流事業** 日本の若者とアジア諸国の若者がお互いの国の文化・歴史を学び、意見交換や交流を通して、相互理解を促進し、平和意識の向上を図ります。

**平和事業への支援** 協会の活動趣旨と一致する音楽会や講演会、シンポジウム及び外国人弁論大会などの活動を助成し、平和事業を推進します。

**秋月グラント** 被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体等へ助成します。

**平和案内人の派遣事業** 県内外の児童生徒や観光客を対象とした碑めぐりや資料館、祈念館等の案内ガイドとして、平和案内人を派遣します。

## II 原爆資料館運営事業（公益目的事業会計：契約名 長崎原爆資料館観覧料徴収・受付案内業務）

## III 原爆資料館図書資料収集整理事業（公益目的事業会計：同資料館図書資料整理業務）

## IV 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業（公益目的事業会計）

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の運営を通じて、協会とのかかわりの深い次の事業を行います。

**被爆体験講話映像制作** 被爆体験講話を収録し、映像化して、後世の平和推進に役立てます。

**被爆関連資料多言語化** 収集した被爆体験記や被爆証言映像の翻訳や吹替映像の制作を行います。

**海外原爆展** 原爆のことを知る機会の少ない海外の人たちに向けて現地で原爆展を開催します。

**ピースネット** 地理的理由により、来崎が難しい遠隔地の小・中学生を対象にインターネット会議システムによる被爆体験講話を実施します。

## V 図書販売事業（収益会計）

## VI その他管理運営に係る費用（法人会計）

## 第4期生平和案内人育成講座が終了しました

昨年11月27日に開講しました「第4期生平和案内人育成講座」が、3月1日に終了いたしました。50名を超える方々から応募をいただき、全15回の講座のうち出席回数を満たした44名の受講生が修了式にて、理事長より修了証書を受け取りました。

育成講座では、継承部会員による被爆体験講話や写真資料調査部会長の講義、長崎・ヒバクシャ医療国際協力会による講義など、様々な分野から被爆の実相を学びました。また、平和案内人を講師として、長崎原爆資料館や国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、被爆建造物等を巡りながら、ガイドのポイントを学びました。

被爆後66年目を迎え、被爆者も高齢となっています。被爆者の声を引き継ぐ後継者育成もますます急がれます。

平和案内人派遣事業も7年目を迎え、4期生という新しい仲間が加わります。これからも核兵器廃絶に向けて活動を続けていきます。



### 平和案内人事業とは

被爆者の高齢化に伴い、被爆の惨状を語る事ができる人が少なくなる中、原爆や平和に対する理解を深め、被爆の実相を広く後世に伝えることを目的に、「平和案内人」の育成に取り組んできました。平成17年度から活動を開始した平和案内人は、長崎県内の児童生徒や県外からの修学旅行生、長崎を訪れた方々に、長崎原爆資料館や国立長崎原爆死没者追悼平和祈

念館、被爆建造物等の案内を行なっています。現在、1～3期生102名が登録し、活動していますが、年々増加する案内申込に対応するため、新たな人材育成として、第4期生育成講座を実施いたしました。

### 〈受講者の感想〉

研修を終えての一番の感想は、視点の置き方次第で説明の仕方が、かなり違ってくるということですが、写真1枚とってみても何を一番に伝えなくてはいけないのか、自分自身で納得して説明するには、随分時間がかかる事だと思えます。又、お客様の気くばりも必要になってくる事でしょう。沢山の課題を抱えてのスタートになります。が、これからも頑張っていきたいと考えています。



最後に講師の方々、班の皆様にご挨拶いたします。本当にありがとうございました。

### 〈受講者の感想〉

今回の講習会やいただいた本「くり返すまいナガサキの体験」の多くの方の被爆体験談を読むにつれ、その情景が脳裏に浮かび、涙が出てきました。真の苦しみは体験しないとわからないかもしれませんが、被爆者の方やその家族の方、親族の方を始め、周囲の方の苦しみや悲惨さは、筆舌に表せない惨状であったことが改めて理解できました。それだけに生き残った被爆者の方々の平和への思いや命を大切にされようとする思いが、改めて理解でき、自分がこれからどうしなければならぬかを、切実な問題として考えさせられました。そのほかにも数多くの資料をいただき、たくさんの方の知識を得ることもできました。学んだことをこれからの活動に大いに役立たせたいと思っております。

### 〈受講者の感想〉

私が育った頃はまだ周りに被爆者や戦争を体験した方がいて話を



聞いたたり、傷痕を見て戦争のおそろしさや平和の大切さを感じる事ができていました。

数年前、小学生の娘と一緒に原爆について調べる学習がありましたが、今の長崎で当時の出来事を知ることが難しくなっていることを実感しました。原爆の悲惨な惨状を後世に伝え二度と繰り返さないよう平和を伝えるために私にできることはないかと考えた時、「私は体験を語ることはできないけれど聞いたことを次の世代に伝えることはできる」そのために真実を正確に学び理解を深めたいと思うようになっていました。

今回受けさせていただいた講座は、大変充実していただけた方向から原爆について学ぶことができました。とくに案内人の先輩方の知識の豊富さには驚き、又その知識を惜しむことなく教えて下さったことに感謝しております。

講座を終えてようやく原爆についての表面の部分だけが理解できました。今後は少しずつ掘り下げて勉強していかなければならないと強く感じています。先輩方の姿勢を見習い、さらに学び、戦争のない平和な世界を作るために、私にできることを探していこうと思っております。



#### 第4期生平和案内人育成講座

	内 容	講 師
第1回	開会あいさつ 被爆体験講話	船山忠弘（当協会副理事長） 永野悦子（継承部会員）
第2回	原爆被害と原爆資料館の概要	鳥巢勝秀（長崎市被爆継承課）
第3回	原爆資料館見学	平和案内人
第4回	写真でみる原爆投下時の長崎 原爆と報道	深堀好敏（写真資料調査部会長） 本田貞勝（広報委員長）
第5回	原爆直後の救護活動と調査	三根真理子（長崎・ヒバクシャ医療国際協力会）
第6回	原爆資料館ガイド実習 ポイント強化解説	平和案内人 松田斉（平和案内人）
第7回	碑めぐり見学（Aコース）	平和案内人
第8回	現代の核問題と平和 ガイドの心得	朝長万左男（長崎原爆病院長） 中小路弥太郎（平和案内人）
第9回	追悼平和祈念館の概要、見学	坂口真一（当協会事業課）
第10回	碑めぐりガイド実習（Aコース）	平和案内人
第11回	碑めぐり見学（Bコース）	平和案内人
第12回	長崎市の平和行政について	田畑祐子（長崎市平和推進課）
第13回	碑めぐりガイド実習（Bコース）	平和案内人
第14回	原爆資料館・祈念館ガイド実習	平和案内人
第15回	被爆体験講話 修了式	早崎猪之助（継承部会員） 横瀬昭幸（当協会理事長）

## 継承部会・平和案内人交流会を開催しました

2月6日(日)長崎パークサイドホテルにて、継承部会・平和案内人の交流会を開催いたしました。参加した継承部会員・平和案内人の感想をご紹介します。

### 2・6 待望の交流会

継承部会長 濱崎 均

1月16日の新年会予定日は「暴風雪・低温」の天気予報で、急きよ2月6日に変更し、「交流会」として実施しました。



継承部会、平和案内人、事務局は互いに交流を深めたいという願いを持っており、48名が参加した今回は貴重な機会となりました。

パルクサイドホテルで正午から開かれた交流会は、2月1日に亡くなられた継承部会員・室園久信さんへの黙祷から始まりました。継承部会員の十八番披露や事務局のご厚意による景品付きのビンゴゲームもあり、各テーブルで話が花が咲く楽しい一時となりました。今後もういっ会を持ちたいですね。

### 交流会に参加して

平和案内人 境 民子

2月1日に室園さんが亡くなられて寂しい気持ちを抱えたままの交流会参加でした。

59歳で始めた平和案内人ですが、元旦には65歳の誕生日も過ぎていて、年を取ったなあ、この調子だと70歳もあつという間に来てしまう、ということを実感した新年でした。交流会では、平和案内人を6年近くもしているのに継承部会の方々を余り知らないことを反省しました。交流会参加者の3割位が平和案内人でしたが、2年前の4、5名の参加を思うとお互い、何人かの顔を覚え、気持ちも慣れて、交流は深まってきたと思います。司会者の提案で自由な進行となり、私達はテーブルで自己紹介をして交流を深めました。詩吟の披露やビンゴゲームを楽しみました。楽しくもあり、誰もが感じていることと思いますが、「月日はあつという間に流れる、平和案内人として生きているこの時代、今することは何か」を深く考えさせられた交流会でした。

昨年継承部会に入会された方から、感想が寄せられましたので、ご紹介いたします。



継承部会へ  
入会して思うこと  
峰 徹

被爆当時、私は9歳。12歳を筆頭に5人の子供を抱えた、母子家庭でした。母は9日朝、食料を求めて浦上方面に買い出しに出かけたまま、ついに戻りませんでした。その後消息は分からず、もちろん遺体も遺留品も皆無です。家は壊れて住めなくなり、途方に暮れました。助けを求めた親戚や隣近所からも見放された私達に、救いの手を差し伸べてくださったのは、お寺の住職一家と、神父様やシスターの方々でした。お陰様で、戦後の困難な年月も飢えることなく成長し、今日に至ります。

これからもずっと平和であってほしい。切にそう思います。しかし戦争やテロが世界で頻発する今日、私に何が出来るのか、戸惑いを隠せません。

「平和は長崎から。長崎を最後の被爆地に」。この言葉の実現を目指して、この度、私も継承部会に入会させていただきました。先輩諸氏の熱意ある取り組みを見習いながら、一生懸命に努力する所存です。



継承部会に入会して  
中村 一俊

原爆投下から66年を迎えようとしている今日、被爆の当事者である私達も年を取ってしまいました。しかし、「私達被爆者が、あの悲惨な原爆の実態を伝えていかなければ」という信念で、体力の続く限り、語り継いでゆくつもりです。

先日、講話が終わってから、私の話を聞いてくださった熊本のご婦人が、私の手をしっかりと握られて「私は原爆には遭っていませんが、熊本で空襲に遭った経験があります。あなたの気持がよく分かります」と涙ぐんでくださいました。戦争が長い間にわたって人の心や身体に痛みを与えることが分かりました。

継承部会に入会させていただいてから、まだ日も浅い私ですが、これからも、先輩方の講話も参考にさせていただきながら、聞いてくださる人達に、原爆の恐ろしさや実態を理解してもらえようように研鑽を重ねてゆきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

# 祈念館だより

「長崎原爆戦災誌」英訳版の  
一部暫定公開を開始しました。

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館（祈念館）では、原爆被害の実相をより広く世界に伝えていくという観点から長崎市が被爆60周年を記念して発刊した「長崎原爆戦災誌第一巻総説編改訂版」の翻訳（英訳）事業に平成18年度より取り組んでいます。また、昨年7月からは、「長崎原爆戦災誌翻訳監修委員会」を設置の上、原爆、戦争、歴史、文化等に関する専門用語や当時の公的機関等に関する固有名詞の英語表記の適切さの確保などについて慎重な調査、検討を加えるための監修作業を進めています。

日本語の原文で700頁を超えるこの戦災誌の英訳のすべての監修作業を完了するには相当の間を要するものと思われませんが、一方、1945年8月9日に原子爆弾が長崎に投下されてから66年目を迎え、被爆体験を語ることでできる被爆者が高齢化する現実

の中で、被爆の実相を世界に向けて発信していく必要性がますます高まってきており、一日も早い公開が望まれています。

このようなことから、監修委員会と協議の結果、監修作業が一旦終了した部分について、順次暫定公開していくこととし、今般、祈念館ウェブサイト (<http://www.peace-nagasaki.go.jp>) 上において第一回目の公開（原文の1頁から53頁に対応する部分）を行いました。今後も順次公開を進めていくことにしています。



## 永井隆博士の本・DVDをお薦めします

原爆資料館図書販売コーナーで、取り扱っている永井隆博士の本の中から、図書販売コーナーの当協会職員がお薦めする本をご紹介します。是非お買い求めください。

○「永井隆 平和を祈り愛に生きた医師」

（株）童心社 1,470円

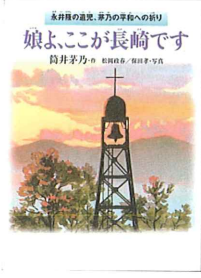
平和の尊さ・愛することの大切さを学びとってほしいと生誕100年を機に書かれました。



○「娘よ、いつか長崎です」

くもん出版 1,365円

永井博士の娘、茅乃さんが母と語り平和の尊さを娘に語り伝えようとした本です。

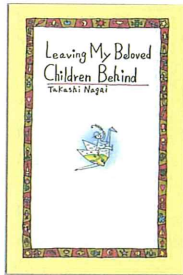


○「Leaving My Beloved Children Behind」

（永井隆著「この子を残して」の英語版です。）

サンパウロ出版 1,600円

長崎で原爆に遭い、放射線を浴びて床に伏す父親が、2人の幼い我が子に書いた遺言書ともいえる本です。

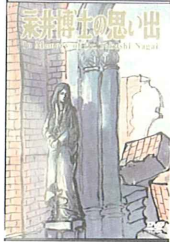


DVD

○「永井博士の思い出」

（株）日映映像 1,470円

永井博士が病床で、娘の茅乃さんとふれあっている姿など、博士の肉声が納められています。



## 東北地方太平洋沖地震による災害に対するお見舞い

この度の東北地方太平洋沖地震により被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。犠牲になられた方々のご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げます。

一日も早い復旧を心からお祈りいたします。

財団法人 長崎平和推進協会

## 長崎平和音楽祭 が開催されました！

3月19日(土)、共催事業であります、長崎平和音楽祭が開催されました。26回目となる今回は、通常の歌や演奏のほかに、当協会継承部会の和田耕一さんの被爆体験を基に、当協会音楽部会のつだけいこさんが脚本・演出を手掛けた、「チンチン電車の詩」の上演もありました。会場となった資料館ホールには多数のお客様がご来場され、熱心に鑑賞されました。



## ピョン ジンイル 辺 真一氏講演会 を開催しました

1月30日(日)、長崎市平和会館ホールに於きまして、当協会の設立記念事業「辺真一氏講演会」を開催しました。当日は大雪にもかかわらず、協会会員をはじめとする400名の市民の皆様にご来場いただきました。講演では、北朝鮮の核問題などに触れ、ユーモアを交えてわかりやすくお話しいただきました。



### 会員数報告

- ◎維持会員 1,218名
- ◎賛助会員 171名
- ◎学生会員 11名

平成23年3月10日現在

### 寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎匿名 一千元
- ◎匿名 一千元
- ◎匿名 五万円
- ◎財団法人 広島県相互扶助会 五万円

(敬称略)

### 「被爆者健康講話」が中止に

今年度の最終講話(3月17日・第10回)が中止になりました。

同講話の講師である高村昇教授をはじめ、ご協力いただく長崎大学大学院放射線医療科の専門医師や講師陣が、東北地方太平洋沖地震で発生した、福島原発事故による被災住民の救護活動への緊急派遣が決定したためです。

本紙は再生紙を使用しています。

平成二十三年三月三十一日発行  
印刷 株式会社 昭和堂